

FMC

果樹・茶・さとうきび用殺虫剤

サムコイル® フロアブル10

powered by
RYNAXYPYR®
ACTIVE INGREDIENT



**果樹害虫のローテーション防除に
欠かせない1剤。**



- 1 葉内への浸透性に優れ、ハマキムシ類やモモハモグリガなどのチョウ目害虫に高い効果を発揮します。
- 2 すばやく効果を発揮するため、シンクイムシ類の被害から作物を守ります。
- 3 訪花昆虫に対して安全性が高く、開花期の害虫防除に適しています。

果樹のチョウ目害虫防除に。適用作物が増えてさらに使いやすく！

ローテーション防除の1剤として

ハマキムシ類、シンクイムシ類などのチョウ目害虫にすばやく効果を発揮。有効成分リナキシビル[®]だから、ローテーションの1剤として有効です。

約2週間の長い効果

効果が長く続くので、ローテーション防除の合間に殺虫効果が切れてしまう心配が少なく、防除間隔に余裕が持てます。

葉内への浸透性

浸透性に優れるため、葉を巻き始めたハマキムシ類や、葉内に潜った害虫に対しても効果を発揮します。

訪花昆虫への高い安全性

マメコバチやミツバチ（セイヨウミツバチ、ニホンミツバチ）に対して安全性が高く、散布翌日に圃場内へ巣箱の導入が可能です。

適用害虫と使用方法

2021年10月現在

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロロールを含む農薬の総使用回数
りんご	シンクイムシ類、ハマキムシ類 ケムシ類、キンモンホソガ ギンモンハモグリガ ヒメボクトウ、ヨモギエダシヤク オオタバコガ	2500~5000倍	200~700ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
なし	ケムシ類、シンクイムシ類 ハマキムシ類、ヒメボクトウ						
かき	ハマキムシ類、ケムシ類 ヒロヘリアオイラガ カキノヘタムシガ ハスモンヨトウ フタモンマダラメイガ	5000倍	200~700ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
ぶどう	ハマキムシ類 ケムシ類、モンキクロノメイガ クビアカスカシバ						
おうとう	コスカシバ、ハマキムシ類 ケムシ類	2500~5000倍	100~300ℓ/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
		オウトウショウジョウバエ					
うめ	ケムシ類、ノコメタガリキリガ コスカシバ	2500~5000倍	2.4ℓ/10a	収穫30日前まで	3回以内	無人航空機による散布	4回以内 (粒剤は1回以内、 水和剤は3回以内)
		ハマキムシ類					
すもも	シンクイムシ類	2500~5000倍	2.4ℓ/10a	収穫30日前まで	3回以内	無人航空機による散布	4回以内 (粒剤は1回以内、 水和剤は3回以内)
	ケムシ類	2500~5000倍					
あんず	ハマキムシ類	2500倍	2.4ℓ/10a	収穫30日前まで	3回以内	無人航空機による散布	4回以内 (粒剤は1回以内、 水和剤は3回以内)
ふさすくり	スグリコスカシバ	2500倍					
もも	シンクイムシ類、ハマキムシ類	5000倍	2.4ℓ/10a	収穫30日前まで	3回以内	無人航空機による散布	4回以内 (粒剤は1回以内、 水和剤は3回以内)
ネクタリン	モモハモグリガ、コスカシバ						
さとうきび	イネヨトウ ツマジロクサヨトウ	50倍	2.4ℓ/10a	収穫30日前まで	3回以内	無人航空機による散布	4回以内 (粒剤は1回以内、 水和剤は3回以内)
茶	チャノココカモンハマキ チャハマキ、ヨモギエダシヤク	2000倍	200~400ℓ/10a	摘採3日前まで	1回	散布	1回
		チャノホソガ、ハスモンヨトウ					

△ 効果・薬害等の注意

- 使用前によく振ってから使用してください。
- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。
- 散布液調製後はできるだけ速やかに散布してください。
- 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせ調整してください。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守ってください。
 - 1) 散布は散布機種種の散布基準に従って実施してください。
 - 2) 散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - 3) 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
- 過度の連用を避け、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせで使用してください。
- 室に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないよう

うに注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

△ 安全使用上の注意

- 誤飲などのないよう注意してください。
- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗してください。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落とすしてください。
- 散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意してください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 無人航空機による散布で使用の場合は、飛散しないよう特に注意してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

殺虫剤分類 28

殺虫剤抵抗性管理 (IRM)

一般推奨事項：薬剤抵抗性の急速な発達を防ぐために、同一作用機構を持つ製品を連続する複数の害虫世代間にわたって処理することは避けること。ブロック式ローテーション、即ち、サムコル[®]フロアブル10または他のグループ28殺虫剤の「ブロック」の後に、異なる作用機構を持つ有効な殺虫剤処理の「ブロック」が続く形でローテーションを使用すること。年間を通じて適応されるすべての「グループ28使用ブロック」の合計暴露期間は作付期間の50%を超えてはならない。栽培期間の短い作物は1栽培期間を1ブロックとする。IPM手法の一環として防除体系に組み込むこと。

害虫の抵抗性、作用機構及びモニタリングに関する追加情報の参照サイト
 (1) Insecticide Resistance Action Committee (IRAC) ウェブサイト <https://irac-online.org/>
 (2) FMCウェブサイト <http://www.fmc-japan.com/trendinfo/irac>

●ラベルをよく読んでください。 ●記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。 ●空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。 ●防除日誌を記帳しましょう。



三井化学アグロ株式会社

東京都中央区日本橋1-19-1日本橋ダイヤビルディング
ホームページ <https://www.mitsui-agro.com/>

SCF1FF1H

製品情報は
こちらから▶